

トピックス

謝恩価格本フェア5/14から開始!	1
造本装幀コンクール・募集5/10まで延長	1
広がるアクセシブルブックサポート	2
こどもの読書週間クラウドファンディング	2

一般社団法人日本書籍出版協会

謝恩価格本フェア 5月14日から開催!

出版社共同企画
期間限定フェア!
謝恩価格本
フェア 全品45%OFF

(一社)日本書籍出版協会
(小野寺優理事長)は、再販制
度の弾力運用の一環として、「こ
どもの読書週間」の時期にあわせ、5

月14日(火)正午から7月16日(火)までの2か月間インターネット限定での第41回「出版社共同企画 謝恩価格本フェア」を開催する。今回の参加は121社(予定)、アイテム数は約5,300点となっている。商品はすべて本体価格の45%引きで販売する。

◆公式サイト <https://www.bargainbook.jp>

◆販売サイト <https://books.rakuten.co.jp/event/book/bargain/shaon/>
(販売サイトは楽天ブックス内に設置。5/14正午からオープンする)

今回も注文書籍は楽天ブックスを通して販売する。点数にかかわらず送料は無料。代引きの場合は、別途手数料330円(税込)、コンビニ店頭支払いの場合は、別途手数料330円(税込)があわせて購入者負担となる(クレジットカード決済の場合、手数料は無料)。

今回も各種SNSを活用しながら読者に宣伝し、売上向上を目指す。以下は各公式SNSのURL。

◆Facebook <http://on.fb.me/1v9yO3Q>

◆Twitter <https://twitter.com/shaonkakaku>

フェアへの参加予定出版社は以下の通り。

明石書店、あかね書房、垂紀書房、朝倉書店、家の光協会、岩崎書店、WAVE出版、潮出版社、SBクリエイティブ、NHK出版、戎光祥出版、エフジー武蔵、オークラ出版、オーム社、化学同人、学芸出版社、Gakken、KADOKAWA、河出書房新社、かんき出版、関西大学出版部、求龍堂、ぎょうせい、金の星社、くもん出版、経済界、芸術新聞社、京阪神エルマガジン社、研究社、玄光社、現代書林、現代数学会、

好学社、講談社、光文社、神戸新聞総合出版センター、光明思想社、晃洋書房、国際書院、国土社、語研、子どもの未来社、小峰書店、コロナ社、作品社、ザメディアジョン、三省堂、産労総合研究所出版部経営書院、JTBパブリッシング、Jリサーチ出版、清水書院、集英社、出版文化社、出版ワークス、主婦与生活社、主婦の友社、春陽堂書店、小学館、小学館クリエイティブ、裳華房、祥伝社、少年写真新聞社、女子パウロ会(聖パウロ女子修道会)、新建新聞社、信山社、新星出版社、鈴木出版、スタンダード、青弓社、青幻舎、誠文堂新光社、世界文化ブックス、禅文化研究所、創元社、第三文明社、大修館書店、大日本絵画、大和書房、玉川大学出版部、淡交社、筑摩書房、中央経済グループパブリッシング、中央公論新社、鳥影社、築地書館、TOブックス、ディスカヴァー・トゥエンティワン、てらいんく、東京書籍、東京書店、東京堂出版、東京美術、東方出版、東洋館出版社、日本ヴォーグ社、日本教文社、日本実業出版社、培風館、白泉社、万来舎、PHP研究所、ひかりのくに、美術出版社、フォレスト出版、扶桑社、プチグラパブリッシング、復刊ドットコム、フレール館、文一総合出版、文藝春秋、平凡社、ベレ出版、法研、法律文化社、ポット出版、ポプラ社、光村推古書院、緑書房、山川出版社、吉川弘文館、臨川書店

(問合せ 日本書籍出版協会 Tel 03-6273-7061)

造本装幀コンクール

作品募集締切 5/10まで延長!

第57回造本装幀コンクールの作品募集の申込み期限が5/10まで延長された。応募作品はすべて今秋の公式展示で展示され、受賞作品は国内外で巡回展示される。

募集期間: 5月10日(金)まで

作品到着: 5月17日(金)必着

出品資格: 出品書籍の制作に関わった者

申込詳細: <https://www.jbpa.or.jp/zohon/zohon-ohbo.html>

(問合せ 同事務局 Tel 03-5211-7282)

ABSC サイト

アクセシブル・ブックス・サポートセンター（ABSC）では、専用サイトを4月1日に公開した。ABSCは、「読書困難者の読書環境整備」と「出版者（出版社）のアクセシビリティへの取り組み支援」を目的として活動している。同サイトでも、アクセシブルブックとはどのようなものなのか、出版者のアクセシビリティへの取り組み支援として、事例や資料集を掲載している。現在はABSCレポートの再掲が主だが、今後情報を増やしていく予定。

また、同サイトは、アクセシビリティ補助機能をつけ、フォントサイズやコントラストなどを切り替えることができ、視覚障害者等にも見やすいサイトとなっている。

ABSCサイト：<https://absc.jp/>



体験 セット

文字・活字文化推進機構では、学校図書館や公共図書館を対象として、主な種類のバリアフリー図書を取りそろえた「読書バリアフリー体験セット」の貸し出しを開始した。セットには、読書バリアフリーについて知る図書、点字本、布の絵本、大きな文字の本、LLブック、オーディオブック、マルチメディアDAISY図書などがあり、無料で貸し出しを行う。貸出の詳細・申込みは、[こちら](#)から。

また、バリアフリー図書がどのようなものか、わかりやすく解説した冊子「[バリアフリー図書の森へようこそ!](#)」もサイトに公開している。冊子はPDF版をダウンロードすることも可能。

広がる

アクセシブルブックサポート

文芸三団体 声明

日本文藝家協会、日本推理作家協会、日本ペンクラブの文芸三団体による「読書バリアフリーに関する三団体共同声明」が4月9日に発出された。声明は、「すべての人に表現を届けるために、そして誰もが自由に表現できるように」という思いが込められている。

共同声明全文：<https://www.bungeika.or.jp/pdf/20240409.pdf>

発表動画：<https://www.youtube.com/watch?v=5cY77RUS0p8>

こどもの読書週間

ひらいてワクワク めくってドキドキ



読書推進運動協議会は、2024年のこどもの読書週間（4月23日～5月12日）の標語を発表した。今年の標語は「ひらいてワクワク めくってドキドキ」。

左のオリジナルポスターを約5万部作成し、公共図書館や全国小・中・高等学校図書館、有力書店、関係

出版社、報道機関等に配布。また、全国の読書運動協議会

に、こどもの読書週間行事補助金を送り、「子ども読書大会」などを実施。その他、各種機関との協力により、「児童図書展示会」、「読書感想文・感想画コンクール」等を実施している。

◆◆◆クラウドファンディングの実施◆◆◆

こどもの読書週間の運営には多額の費用がかかり慢性的な赤字状況となっており、継続的に運動を推進するのが難しくなるという危機感により、今回「第66回 こどもの読書週間」クラウドファンディングを実施することとし、参加・応援を呼び掛けている。

期間：4月20日（土）～5月24日（金）

目標金額：150万円

クラウドファンディングページ：<https://camp-fire.jp/projects/view/750278>

（問合せ 読書推進運動協議会 Tel 03-5244-5270）



全出版人大会 大会声明

5月7日（火）15時よりホテルニューオータニ東京で行われる全出版人大会において、大会委員長である筑摩書房社長の喜入冬子氏より大会声明が発表される。

当日は、第一部として、式典、岸政彦氏（社会学者）の講演が行われ、第二部はパーティが行われる。

大会声明

来年は戦後80年になります。

戦争中は激しい言論統制が行われ、また物資不足から紙が手に入らず、出版活動はかなり制限されました。田辺聖子さんが戦争中、あまりに読むものがなくて、畳をひっくり返したとき下に敷かれていた古新聞をむさぼり読んだ、というエピソードをどこかで聞いたことがあります。それくらい人は活字に飢えていました。おそらく情報にも飢えていたでしょう。いっばうで、書きたいことが書けないならと断筆する人もたくさんいました。

1945年に戦争が終わり、占領期にはGHQの検閲などもありましたが、出版活動は一挙に加速しました。カストリ雑誌から文学全集まで、とにかく、読みたい、書きたい、というエネルギーにあふれていたように思います。もちろん時代の趨勢もあり、そこから一直線に拡大していったわけではありませんが、みなさんご存知のように、その後、1996年までは、基本的に出版活動は拡大成長していました。

そして以降、われわれは長く続く出版不況のなかにいます。人々が書いたり読んだりしなくなったのか、と言えばそんなことはありません。文字を使った情報交換は、ネットの登場によりむしろ飛躍的に多くなっています。単に、本を読まなくなったのです。ではなぜこういう状況になったのか。

出版は、英語ではpublishと言いますが、これはpublish

icの動詞形です。つまり、公にする、という意味です。印刷技術が発達する以前、publishは、お披露目する、という意味でつかわれていて、作者が自ら、人々の前で読み上げることを意味していたそうです。（高宮利行『西洋書物史への扉』岩波新書、2023年）

出版とは、誰かが書いたものをお披露目する、公にする仕事なのです。

しかし、今は誰もが自由に発信できる時代であり、そういう意味では誰もがパブリッシャーになります。そうしてパブリッシュされた情報がネットにあふれている。戦争中とは逆に、人々は情報の海でおぼれそうになっているようにみえます。

そして、本を開く余裕を失っているのではないのでしょうか。

しかし、だから本はもう必要ない、のではなく、いまこそ必要なだと考えます。

われわれが作っている本は、電子書籍も含めて、きちんとその質を担保しています。著者名があり出版社名があり、内容に責任を持っています。そのことの価値は、情報がフェイクだらけになっていく世界にあつて、ますます高くなっているはずです。

世の中に必要であると思った情報を広めていく、公にしていく、という使命を、われわれはこれからも変わらず果たしていく。その決意を新たに、大会声明といたします。

2024年5月7日

出 版 統 計

書 籍	3月期	前年同月比	1～3月期	前年同期比	書 籍 出 回 り	3月期	前年同期比	1～3月期	前年同期比
新 刊 点 数	6,201点	▲ 3.9	16,090点	▲ 0.8	推 定 出 回 部 数	8,429万冊	▲ 8.7	20,909万冊	▲ 4.9
新刊推定発行部数	2,337万冊	▲ 14.1	6,213万冊	▲ 7.0	推 定 出 回 金 額	1,113億円	▲ 8.5	2,714億円	▲ 4.5
新刊平均価格	1,358円	0.2	1,319円	0.8	推定出回平均価格	1,321円	0.2	1,298円	0.5
新刊推定発行金額	317億円	▲ 13.9	819億円	▲ 6.3	実 売 部 数	3月期	前年同期比	1～3月期	前年同期比
月 刊 誌	3月期	前年同月比	1～3月期	前年同期比	書 籍	6,094万冊	▲ 7.9	14,307万冊	▲ 5.0
発 行 銘 柄 数	1,734点	▲ 3.8	2,149点	▲ 2.3	月 刊 誌	4,662万冊	▲ 15.2	11,248万冊	▲ 14.5
推 定 発 行 部 数	7,593万冊	▲ 15.2	19,463万冊	▲ 12.5	週 刊 誌	1,319万冊	▲ 18.2	3,872万冊	▲ 12.7
平 均 価 格	777円	7.0	768円	5.9	実 売 金 額	3月期	前年同期比	1～3月期	前年同期比
推 定 発 行 金 額	590億円	▲ 9.3	1,494億円	▲ 7.3	書 籍	836億円	▲ 7.7	1,921億円	▲ 4.6
週 刊 誌	3月期	前年同月比	1～3月期	前年同期比	月 刊 誌	361億円	▲ 9.4	861億円	▲ 9.3
発 行 銘 柄 数	70点	▲ 6.7	72点	▲ 5.3	週 刊 誌	57億円	▲ 15.9	167億円	▲ 9.0
推 定 発 行 部 数	2,430万冊	▲ 14.5	7,115万冊	▲ 10.1	実 売 金 額 合 計	1,254億円	▲ 8.6	2,949億円	▲ 6.3
平 均 価 格	439円	2.8	441円	4.5					
推 定 発 行 金 額	107億円	▲ 12.0	314億円	▲ 6.1					

- 銘 柄 数 月刊誌は1ヵ月、週刊誌は1週間平均の発行銘柄数
- 部 数 配本されたと推定される部数。書籍出回り部数は新刊・重版の流通総量を表したものの。
- 平均価格 部数を加味した加重平均価格(税抜)
- 金 額 発行部数・出回り部数を価格で換算した金額

[提供 出版科学研究所 (TEL03-3269-1379)]

EVENT INFORMATION

■JBBY50周年連続講座「日本の国際アンデルセン賞受賞作家たち」

場所：出版クラブビル（神保町）＋オンライン

内容：

第1回 5/18（土）「時代の寵児 安野光雅の世界」
（廣石修・元安野光雅美術館副館長）

第2回 6/8（土）「まどさん、まどしてる」（市河紀子・フリーランス編集者）

詳細・申込み：<https://jbby.org/koza/andersen-koza/post-19681>

問合せ：JBBY (TEL 03-6273-7703)

■自然科学書フェア2024

期間：5月14日（火）～7月31日（水）

場所：ジュンク堂書店藤沢店

内容：理学、工学、農学、医学、家政学の各ジャンルから、出版社お薦めの本を厳選して展示販売。また、【図鑑・事典】、【人工知能】、【健康・運動・リハビリテーション】、【宇宙・天文】、【動物たち】、【防災】といったテーマを掲げた、ミニコーナーも展開

編集後記

GW、みなさまいかがお過ごしでしたでしょうか。上野の森親子ブックフェスタは今年も天候にも恵まれ、大盛況でしたね。昨年は異例の暑さでしたが、今年は過ごしやすかったのではないのでしょうか。今年は少し遠出したので、旅する前にガイドブックで気分を盛り上げていましたが、旅先で同じ観光ガイドブックを片手に観光している方を見て、にんまりしている私がありました。（あ）

一般社団法人 日本書籍出版協会

発行人：樋口清一

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32

TEL：03-6273-7061

FAX:03-6811-0959

Web サイトもご覧ください

<https://www.jbpa.or.jp>